



**亜麻花壇**  
麻生の中心・五差路交差点の北海道銀行麻生支店前に大きな花壇が仕上がりました。最初は「'86 さっぽろ花と緑の博覧会」会場へ乗り継ぎする来街者の歓迎と自転車放置を防ごうと企画され、平成元年の第一回「あさぶ祭」宣伝場所としても活躍しました。  
5又路では昔の麻生を探しています。写真や資料の提供をお待ちしています。

**ふる里** — 麻生の亜麻に魅せられて —  
亜麻物語 (初めての栽培)

亜麻を栽培しよう！昭和58年1月、あさぶ商店街の新年理事会で亜麻栽培の事業提案が全員賛同で可決しました。前々年に創刊した「コミュニティー紙5又路」の取材で出合った亜麻工場の歴史を受け継ぐ始まりです。処が、種を求めても生花店や種苗問屋に亜麻の種は見つかりません。それどころか、亜麻の説明を逆に問われる始末です。かつては北海道を代表する作物として全道で栽培され、繊維を採る工場も各地に在ったと資料には書かれているのに…。雪融けが過ぎ、諦めだした担当者の目に飛び込んだのが「亜麻栽培で町おこし」の新聞記事でした。すぐさま訪問の意向を伝え、向かった先は名寄市商工会議所。既に生育中の写真や栽培注意のメモ書きと共に「あおやぎ」と名付けられた32粒の亜麻の種は日帰り麻生に到着しました。

当時の生育日記によると1983年6月10日に播種。花屋さんを経営する理事者の指導で商店街事務所に持ち込んだ鉢に植えられ、8日目に10粒が、翌日には24粒が発芽し、13日目には25の双芽が茎高4.5センチと記されています。見守る理事者の一人から「畑の作物だから外が良い」との意見が出て、15日目には鉢を地中に埋め、添え木にした割り箸を竹竿に替える1ヶ月後の茎高は12センチ。待望の開花を初めて目にしたのは70センチに伸びた61日目、淡い青紫の花が一つ咲きました。各理事者に連絡したのは勿論です。資料本に書かれていた通り半日で花卉は散りましたが翌日からは次々と開花、理事会では亜麻談義にも花が咲き、種が充分に熟すのを見定めて収穫を終えました。

以来25年、栽培地は転々としながらも今では手馴れた亜麻栽培ですが、発芽や開花を見る度に故人となられた先輩諸氏との場面も甦ります。

**ひとり暮らしの方へ**

“お変わりありませんか？”を標題にする新聞は平成17年から毎月発行を続け、5月で18号を数えました。

発行者は「ベルビュ麻生マンション」(北36西6)に住む佐藤 薫さん、伊達市出身の元陸上自衛隊1等陸尉さんです。務める民生児童委員の担当域に住む独り暮らしのお年寄りに届けられるA4サイズ1ページの新聞には、地域の出来事や風物が大きな活字とカラー写真で紹介されています。

「まだまだ子ども達には体力で負けない！」三男一女のお父さんは、今年25周年を迎える麻生地区防犯協会の記念誌編集に昨年から取組むなど何とも多忙な毎日です。定年退職後、大学に嘱託勤務する傍らでボランティア活動する主なだけでも「ベルビュ麻生管理組合理事長」・「麻生地区青少年育成委員会代表幹事」・「麻生まちづくり協議会幹事」・「自衛隊OB会厚生委員」などの他に「YOSAKOIソーラン祭り」麻生会場の出演チーム担当や子ども達に農作業体験を誘う畑仕事、「マコト神社」の雪像づくりや麻生緑地の「雪灯りイベント」など枚挙に尽きません。そして、間隙を衝くように「サロマ100キロマラソン」をはじめ「洞爺湖マラソン」や故郷の「伊達マラソン」などにも常連を重ね、冬は恵庭や湧別原野など各地のクロスカントリー大会にも参加すると聞いては驚くほどしかありません。

「麻生の超人」とでも名付けましょうか？  
新聞ご希望の方はTEL 716-9347かメール(satokaoru@opt.gate01.com)で申し込みください。  
因みに、佐藤さんが投稿する地域行事の写真集は「Webシティーさっぽろ http://webcity.sapporo.jp/」の「ウェブシティーさっぽろフォトマスター写真展」をクリックしてお訪ねください。何とも頼もしい麻生のボランティアマンです。

2007/05/14  
**“お変わりありませんか？” 19年5月 (18号)**  
麻生地区民生児童委員 佐藤薫 (TEL716-9347)

- 端午の節句  
5月5日は端午の節句で子供の日です。子供の健やかな成長願って鯉のぼりを上げる習わしがあります。札幌市役所前の広場にあるボール2本に鯉のぼりがありました。風が当たらないのでお休み中でした。ところが大通公園を挟んで向側にある丸井デパートの屋上にある鯉のぼりは、春風を受け元気がいい泳いでいました。
- 麻生緑地に亜麻の種をまきました。  
今年もかつて子供会が有志による亜麻の種まきが連休初日の4月29日におこなわれました。場所は麻生緑地のグールボール場の裏側の花壇で、土の耕し、肥料散布、播種、散水を実施し、最後に参加者全員で意匠を祈願しました。また、ヴェルビュ麻生の花壇にも、5月1日亜麻の種をまき、亜麻のPR用看板も設置しました。
- とくに福祉社会(知的障害者通所授産施設)の作品紹介  
寺岡直明さんの作品です。蝶のつがいと、シブシブな構図と独特の色彩感覚で描いた、切り絵に見える作品です。
- カクワが豊平公園で満開でした。  
4月24日に豊平公園で撮影したカクワです。この場所は、野原の中心にある一角で、カタクリ(ピンク)とエゾエンゴサク(黄色)が満開に咲きほこっていました。特にカタクリは、花びらがシクラメンのように反り返って存在感があります。またこの場所にはキナカクワ(黄色)も植えてあり、5月中旬にはピンク色から黄色一面の花壇に変化します。

亜麻で麻生を飾りませんか！栽培25年記念「亜麻の種」進呈中(麻生まちづくりセンター)

# ☆「フィギュアショップ」オープン!☆

小さな子が居る家のテレビの上などに、コーラやチョコレートなどの景品に付いてくるスターウォーズやスーパーの人形などを見かけることはありませんか。身近に飾って観賞するアニメや漫画キャラクター人形のことを「フィギュア (FIGURE)」と言います。何十万円もする宝石入り高級品から手足を動かせるアクションフィギュアや野球選手フィギュア・植木 等にモーツアルトの限定発売品などフィギュア商品は豊富を通り越す種類です。

四番通り沿いに開店した『ToyShop・SIDE-3』はネット販売も盛んなことから営業時間は変則ですが、ウルトラマンや仮面ライダー・機動戦士ガンダム時代の熟年層やアンパンマン・キン肉マン世代などとコレクションを求める来店客は多様です。オーナーは新琴似出身の川尻英樹さん。4月に狸小路の店舗を閉鎖して念願の地元出店を果たしましたが、4坪ほどの店舗に1000点以上のフィギュアが天井まで所狭しと並んでおり、マニアならずともテレビ場面を思い出し想像をかき立てながらのひと時を過ごせます。「麻生は物販店が少ないので、子ども達が気軽に

寄ってくれる店になれば」と願う川尻さんの特技はロックバンドのドラマー。時にはメンバーを率いてライブ出演するのを楽しみに、ホームページの更新や発送作業に多忙を極めています。場所は五差路交差点から石狩街道に向かうパポッツを過ぎた左側、買い取り希望の方も査定にお持ちくださいとのこと。お探しのコレクションセットに出会うかも知れません。

ToyShop SIDE-3 住所:麻生町2丁目5  
TEL・FAX:756-4520

http://www.toy-side3.com 携帯版は /m/index.htmlを追加  
営業時間:月~木14時30分から20時、金・土12時から20時、日12時から6時30分



# 麻生探訪 JR札幌線(学園都市線)

都市鉄道と呼ぶに相応しく、複線・高架化の非電化軌道を洒落た車体の連結車両が日中20分間隔で走る「札幌線」。市電や地下鉄開通で利用客が激減し、昭和47年に一部廃線となりますが、「北海道医療大学」(当初は東日本学園大学)開校や「北海道教育大学」の移設・「あいの里」団地の整備拡大が朝夕のラッシュを呈する利用客増となり、「学園都市線」の愛称が平成3年に名付けられました。

かつては、「石狩沼田」(現在の留萌線駅)と「桑園」を結ぶ総延長111.4kmの「札幌線」として昭和10年6月に全線完工。「沼田鉱山」や「帝国製麻琴似工場」・「北海道ドリゾール工業」が盛業時には貨車輸送の重要路線でしたが、建設機運が高まった明治37年頃からの長期に渡る促進運動や昭和2年から始まる4工区部分開業の経緯と営業休止・再開・部分廃止などの変遷は北海道の産業史と並行して語ることも出来る路線です。

現在の終着駅「新十津川」へ向かうには「月形」駅を経由して「浦臼」行きに乗り、そこから一日3便を利用しますが、ピンネシリ山や田園風景を眺めながら石狩川を挟んで函館本線と並行するように走るワンマン電車で憧れる鉄道マニアは少ないといえます。



昨秋の「あさぶ亜麻そば祭り」で初披露されたCDが発売中です。FMラジオパーソナリティーなどで活躍する森崎ひとみさん(新川出身)の情感溢れる歌唱が「故郷への想いを、独り一人が主人公でありヒロインであるつもりで愛唱して載きたい」と願う林先生の麻生に対する愛着を語りかけてくれる1曲です。

ご希望の方は、5又路編集係か「麻生リハビリ内科」TEL716-4611まで

### 俳花壇

春暁や樹林にわか鳥の声  
春空にせきれい高低定まらず  
日矢さして青く濁れる蝌蚪の紐  
青嵐真つ逆さまに五十雀

《東 鉄幹》

牧の牛乳房にはねし春の泥  
黒牛の歩みに合はせ草青む  
藁一本垂らし雀の巣立ちけり  
風絶えし空に一点揚雲雀

《亜 矢 女》

早朝の窠入れ急ぐ寒辰り  
叱られて尾を振る猫や日脚伸ぶ  
遠の子のメールに写る初節句  
弥生尽転居のメール届きけり

《山 野 杏子》

この市道拡幅について以前調べたことがある。「車の通行量が増え、静穏な住環境が脅かされる」との反対意見を一顧だにせずに進められたという点で乱暴な公共事業であることは明らかだった。市の職員が道路予算を消化するために机上でプランニングしたのだろう。地元への計画説明から12年が経過した。市の担当者は後任への事務引継ぎを繰り返しながら代替わりを重ねたはずだ。

# 麻生の亜麻の歩み

- 1983: 亜麻栽培を始める ①
- 1984: 「あさぶ商店街10周年誌」の綴りに亜麻繊維を採用「浦上直二農場」(江別市篠津)で畑作 ②
- 1985: 亜麻種子の無料提供を始める\*継続中
- 1986: 「86さっぽろ花と緑の博覧会」に亜麻を出展栽培「あまトピア麻生」イベントで商店街に花壇設置北海道銀行麻生支店前に栽培花壇を設置「ミスあまトピア」らが都心・花博会場などで亜麻種子を配布亜麻100%のオリジナル暖簾などを記念発売
- 1987: 「亜麻の活け花展」をたぐん麻生支店で開催
- 1988: 栽培地を「田中武雄」氏畑地(新琴似)に移転 ③
- 1989: 亜麻の花咲く手づくりの祭り「あさぶ祭」を企画開催
- 1990: マコト神社復活を目指して「麻琴会」を発足
- 1992: 「亜麻物語」を5又路に掲載
- 1993: 栽培地を「麻生緑地」に移転\*継続中 ④  
「美幌亜麻」を視察研修
- 1994: 「亜麻和紙研究会・亜麻みのり」を発足中津川郁夫氏畑地で栽培を始める\*継続中「埼玉製紙工業試験場」を視察研修「あさぶ文化祭」で紙漉き実演
- 1995: 碎茎機・ムーラン(採織機)を復元 ⑤  
中津川氏畑地で浸水・採織作業を始める\*継続中紙漉き・手打ちそば教室を開講\*継続中「土佐和紙」(伊野町)を視察研修「あさぶ文化祭」に亜麻和紙作品を出展\*継続中
- 1996: 「土佐和紙」技術者を招き紙漉き研修会を実施 ⑥  
「5又路100号縮刷版」に亜麻和紙を挿入
- 1997: 「あいのさとアクティビティーセンター」で和紙製作を指導「亜麻和紙」完成\*土佐和紙芸村に製作依頼
- 1998: 「小樽市花園商店街」が来訪。紙漉き研修を行う「ふらつくす倶楽部」を発足
- 1999: 「亜麻物語」をwebサイト「あまトピア麻生」で配信\*継続中
- 2000: 亜麻和紙でYOSAKOI踊り子の法被衣装を製作亜麻の成分分析を目的に「北区街づくりコンテスト」に参加「あまそば」試作完成\*木村弘(そば店主)YOSAKOI交流チーム(岐阜県瑞浪市)に「あまそば」を進呈「亜麻和紙人形教室」を開講\*継続中

- 2001: 亜麻クッキーを試作YOSAKOIの交流チーム(平岸天神)に「あまそば」を進呈
- 2002: NHK「金曜広場640」に「あまそば」・亜麻和紙を出品「和光小学校」で亜麻のゲスト授業を担当
- 2003: 「雪だるまチャレンジ」に参加、道銀前で雪だるまを製作「吉田予吉」氏畑地(石狩市生保)で栽培を始める\*継続中 ⑦  
YOSAKOI麻生会場で縁日コーナーを出店\*継続中「和光小学校」のゲストティーチャー学習に出席あさぶ商店街30周年誌に「亜麻物語」を掲載
- 2004: 道銀前でマコト神社雪像を制作\*継続中NHK「ほくほくテレビ」に出演種子付きポストカードを発売\*継続中「あさぶ亜麻そば祭り」を企画開催\*継続中「ひほろ亜麻のふるさと研究会」が来訪、交流「和光小学校」のゲストティーチャー学習に出席「亜麻仁油サプリメント」試作を応援「AMAサポーターズクラブ」と意見交換「北海道亜麻協会」発足に参加「とんとんひろば」(札幌まちづくり生涯学習活動推進事業)に参加
- 2006: 北区伝統文化フェスタに作品コーナー出展 ⑧  
NHK「ほっからんど北海道」に出演東区「あまそば」に出品参加
- 2007: 亜麻栽培25年を迎える



② 満上畑地



① 初栽培

⑤ ムーラン



③ 北区伝統文化フェスタ



⑥ 田中畑地



④ 麻生緑地



⑧ 採織作業研修



⑦ 紙漉き研修会



⑦ 吉田畑地

# 消される風景

8年近く住んだ賃貸マンションの「丸増麻生ハイツ」の解体が進んでいる。昨秋頃から窓の明かりの数が減り始め、居住者の退去が3月末で完了した。

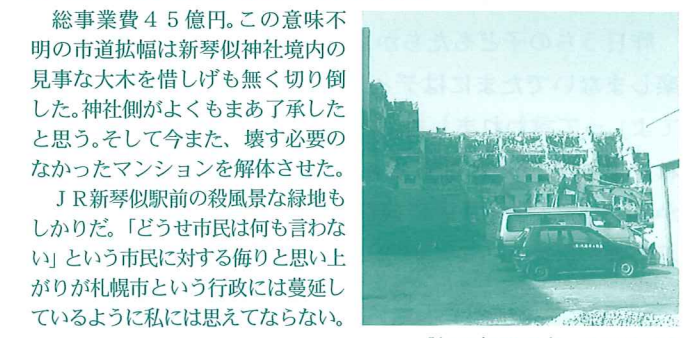
4月、瞬く間に足場が築かれていく。デジカメに建物の姿を収めた。重機による取り壊しが始まり、ズシン・ズシンと瓦礫が崩れ落ちる音が電気ドリルの轟音に混じって聞こえてきた。自分と家族が馴染んだ風景がかき消される寂しさを覚えた。

跡地に分譲マンションを建てると聞いた。1981年に完成した建物を、まだ住めるのに取り壊すのは冷徹な経営の論理ゆえなのか。もったいないではないか…。そんな思いがくすぶり、所有者の「札幌丸増」に元入居者の立場で聞いてみた。そして分かったのは、根本の理由は敷地と接する市道の拡幅だった。

当初は拡幅にかかる建物の一部分だけを削る予定だった。しかし、端をカットすると建物全体の耐震性能が落ちるため、補強工事に膨大な費用がかかることが分かった。世間を騒がせた耐震偽装事件も建て替えへの判断を促したという。担当者は「入居率の低いマンションではなかったため、そのまま維持できるに越したことはなかった」と話した。

この市道拡幅について以前調べたことがある。「車の通行量が増え、静穏な住環境が脅かされる」との反対意見を一顧だにせずに進められたという点で乱暴な公共事業であることは明らかだった。市の職員が道路予算を消化するために机上でプランニングしたのだろう。地元への計画説明から12年が経過した。市の担当者は後任への事務引継ぎを繰り返しながら代替わりを重ねたはずだ。

一つの公共事業が完了するまでに要する事務作業は膨大だ。計画・設計・入札・業者選定・着工・完了検査。市道拡幅では地権者との交渉もあった。山のように仕事が発生する。役人は淡々と事務をこなして、それで仕事をした気になったであろう。



【毎日新聞記者 山田寿彦】

「振り込め詐欺」・「催眠商法」・「リフォーム詐欺」など警戒警報続行中!

# 歯なしにならない話

☆☆今宵もあさぶで乾杯☆☆

しばらく前から内装工事をしていた近所の店がよいよオープンすることになった。掲げられた看板には「上州豚ホルモン専門店」の文字。「お～今度は上州、群馬か～」と日ごろからの飲み食い道楽に心が動かされた。「飲食は難しい」って言われて久しい麻生だが、ここ数年夜を中心として飲食店がぐっと増え「今夜はどこにしようかな～」ってようやく悩めるぐらいになってきた。それもどこもおいしくてお客もいっぱい、予約なしでは入ることができないこともある。週末の夜は五差路も酔い客で賑わい、麻生の創成期を知る商店街のある先輩が「麻生も夜の街になるのかね～」って嘆くほどだ。まあ、それはそれで麻生の“生き残り”のひとつの方法だと個人的には思うけど。

さてそのあさぶ飲み食い道楽、実はこの麻生、ご当地グルメの宝庫だということに最近気が付いたのだ。冒頭の上州豚ホルモンもそのひとつに仲間入りだが、ざっとあげてみても、室蘭(やきとり)、根室(エスカロップ)、美唄(もつ串)、沖縄(沖縄料理)、秋田(きりたんぼ)、名古屋(どて焼き)、博多(モツ鍋)、熊本(太平燕)・・・などなど。その料理を看板にしているところもあれば、店の売りとしてレギュラーメニューに並べられているところもあって、麻生に居ながらにして全国各地の料理が楽しめるようになっている。ついこの間も、昼にエスカロップ、夜にもつ鍋、二次会でヤキトリってやってるうちにしまいには、今日本のどこで飲んでかわからなくなってしまった。(←飲みすぎただけじゃないの!!) 僕がこの道(←どの道よ!!)に入門したてのころは、夜麻生を歩いても「村さ来」ぐらいしか立ち寄れるところがなかったように思う。おのずと足はススキノにむかい、麻生で飲んで食べてなんてすることはあまりなかったな～。あれから20年経って道楽にも本腰が入ってきたが、麻生は割安だし帰りの心配がいらぬ、おまけにいろいろなものが楽しめるとなつては、もうススキノに出向く必要がなくなってしまった。そう広くない麻生エリア、そこでこんなにも楽しむことができるなんて、新しい麻生の魅力になってると思いませんか？

みんなももっと麻生を楽しもう!!

昨日うちの子どもたちから「おとうさん、自分ばっかし楽しまないでたまにはディズニーランドにでも連れてってよ」って言われました。え～っ、飛行機は嫌だしな～それに家族で行くと論吉さんが何人羽ばたいていくことか。あ～それなら手近に麻生でミッキーの着ぐるみでも着て誰か店をやってくれないかな・・・と思う。

麻生の三代目より

あさぶ 麻生 義造 じいさん 物語 作・ていけい



## 編集後記

天候に恵まれた連休。木々や草花の芽吹きに遅しさを覚え、水仙やカタクリ・水芭蕉の花開く姿に心和むひと時を過した方も多かったようです。目に青葉の水無月は YOSAKOI の躍動に心奮い立たせ、アウトドアを目指しては如何でしょうか？

又路・128号 平成19年6月1日発行  
麻生商店街振興組合 ☎ 707-9923  
〒001-0040 札幌市北区北40条西5丁目山晃ハイツ301  
Eメール: asabusyo@minos.ocn.ne.jp

物忘れが気になりだしたら「認知症ね」と http://www.chihou.net